

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年8月31日(2006.8.31)

【公表番号】特表2005-539011(P2005-539011A)

【公表日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2005-050

【出願番号】特願2004-526242(P2004-526242)

【国際特許分類】

C 0 7 H 15/252 (2006.01)

A 6 1 K 31/704 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 H 15/252 C S P

A 6 1 K 31/704

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月14日(2006.7.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

化合物、ならびにその全ての塩、水和物、結晶形態、および立体異性体であって、以下：
ポルフィリン、および

化学療法剤、

を含有し、ここで、該化学療法剤が、ポリアミンでも、ポリアミンアナログでも、環式ポリアミンでも、環式ポリアミンアナログでも、ジオキソナフトキノンでも、ジオキソナフトキノン誘導体でもない、

化合物。

【請求項2】

請求項1に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、前記化学療法剤に共有結合されている、化合物。

【請求項3】

請求項2に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、連結基を介して、前記化学療法剤に共有結合されている、化合物。

【請求項4】

請求項2に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、メソポルフィリン、ジューテロポルフィリン、ヘマトポルフィリン、プロトポルフィリン、ウロポルフィリン、コプロポルフィリン、サイトポルフィリン、ロードポルフィリン、ピロポルフィリン、エチオポルフィリン、フィロポルフィリン、ヘプタカルボキシポルフィリン、ヘキサカルボキシポルフィリン、ペンタカルボキシポルフィリン、および他のアルキルカルボキシポルフィリン；ならびにそれらの誘導体からなる群より選択される、化合物。

【請求項5】

請求項4に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、ジューテロポルフィリンの誘導

体からなる群より選択される、化合物。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、ジューテロポルフィリンのスルホン酸誘導体からなる群より選択される、化合物。

【請求項 7】

請求項 4 に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、メソポルフィリンである、化合物。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の化合物であって、前記ポルフィリンが、メソポルフィリン I X である、化合物。

【請求項 9】

請求項 2 に記載の化合物であって、前記化学療法剤が、抗腫瘍抗体、ドキソルビシン、ブレオマイシン、ダクチノマイシン、ダウノルビシン、エピルビシン、イダルビシン、ミトキサントロン、マイトマイシン、エピポドフィロトキシシン、エトポシド、テニポシド、微小管阻害剤、ビンブラスチン、ビンクリスチン、ビンデシン、ビノレルビン、他のビンカアルカロイド、タキサン、パクリタキセル（タキソール）、ドセタキセル（タキソテール）、ナイトロジェンマスタード、クロラムブシル、シクロホスファミド、エストラムスチン、イフォスファミド、メクロレタミン、メルファラン、アジリジン、チオテパ、アルキルスルホネート、ブスルファン、ニトロソウレア、カルムスチン、ロムスチン、およびストレプトゾシン、白金錯体、カルボプラチン、シスプラチン、アルキル化剤、アルトレタミン、ダカルバジン、プロカルバジン、テモゾラミド、葉酸アナログ、メトトレキサート、プリンアナログ、フルダラビン、メルカプトプリン、チオグアニン、アデノシンアナログ、クラドリビン、ペントスタチン、ピリミジンアナログ、カペシタビン、シタラビン、フロクスウリジン、フルオロウラシル、ゲムシタビン、置換ウレア、ヒドロキシウレア、カンプトテシンアナログ、イリノテカンおよびトポテカン、トポイソメラーゼ I インヒビター、トポイソメラーゼ II インヒビター、ならびにアントラサイクリン抗生物質からなる群より選択される、化合物。

【請求項 10】

請求項 2 に記載の化合物であって、前記化学療法剤が、ドキソルビシンである、化合物。

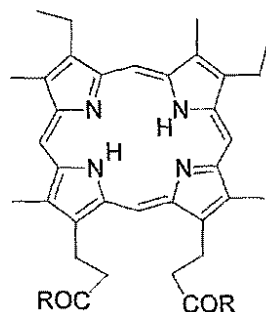
【請求項 11】

請求項 2 に記載の化合物であって、前記化学療法剤が、ドキソルビシンであり、そして前記ポルフィリンが、メソポルフィリン I X である、化合物。

【請求項 12】

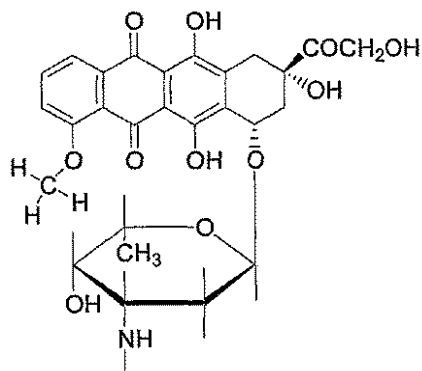
請求項 11 に記載の化合物であって、以下の構造：

【化 1】



であり、ここで、R が、

【化 2】



である、化合物。

【請求項 1 3】

制御されない細胞増殖によって特徴付けられる疾患を処置する組成物であって、該組成物が、治療的有效量の請求項 2 に記載の化合物を含む、組成物。

【請求項 1 4】

請求項 1 3 に記載の組成物であって、前記疾患が、癌である、組成物。

【請求項 1 5】

制御されない細胞増殖によって特徴付けられる疾患を処置するための組成物であって、該組成物が、治療的有效量の請求項 1 0 に記載の化合物を含む、組成物。

【請求項 1 6】

請求項 2 に記載の化合物を作製する方法であって、ポルフィリンと化学療法剤との間に共有結合を形成する工程を包含する、方法。

【請求項 1 7】

請求項 1 2 に記載の方法であって、アミド結合を形成させる試薬の存在下で、ドキシソルビシンとメソポルフィリン IX とを反応させる工程を包含し、該アミド結合が、メソポルフィリンカルボキシル基とドキシソルビシンアミノ基との反応によって形成される、方法。

【請求項 1 8】

請求項 1 7 に記載の方法であって、前記アミド結合を形成させる試薬が、オニウム試薬およびカルボジイミドからなる群より選択される、方法。